

降霜被害 1/4の農家が5割から8割近い被害か！

今後も毎年被害を被る可能性があり、本気で検討して行かなければならない(副市長)

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049



小野寺副市長に申し入れを行う日本共産党の千田みつ子県議と奥州市議団

防霜ファンの設置など、恒久的な対策の検討を

日本共産党の千田みつ子県議と奥州市議団は、6月12日、倉成淳奥州市長に対し、「果樹の降霜被害に係る支援策に対する申し入れ」を行いました。当日は、小野寺副市長と及川農林部長、村上農政課長が対応しました。

4月25日未明からの強い霜により、江刺地内のリンゴ園で降霜被害が発生しました。このため、千田みつ子県議と奥州市議団は、6月1日岩手江刺農業協同組合園芸センターを訪問し、被害の実態等について聞き取り調査を行い、それをもとに、今回の申し入れと

- ①凍霜の被害の実態を把握し、支援を行うこと。
- ②降霜に対する恒久的な対策を検討すること。
- ③これらの被害を受けた農家について、樹勢回復のための肥料代、徒長枝の管理作業に係る経費、病害虫防除作業費と農薬代など、かかり増し経費に対する支援を講じること。
- ④多くの果樹農家は本年の収入減が避けられない状況にあるため、営農のために必要な運転資金の融資をおこなうこと。
- ⑤農業共済の果樹共済について、掛け金の助成及び制度改善を国に要望すること。
- ⑥営農継続に必要な様々な相談に対応できる窓口を開設すること。

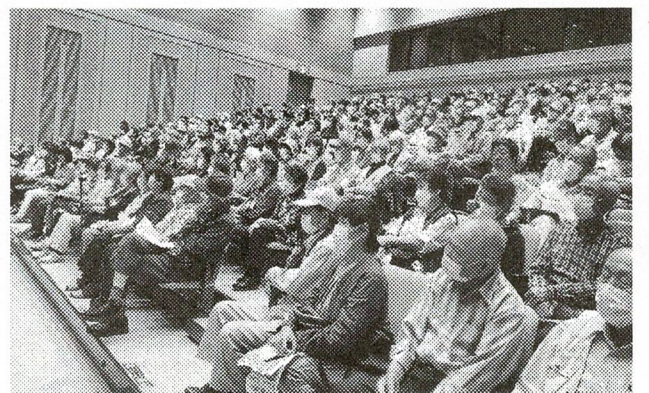
田村智子副委員長の訴え 心に響きました！！



日本共産党奥州市委員会では、6月11日、田村智子副委員長・参院議員を迎えた演説会を開催しました。千田みつ子県議、吉田恭子副委員長も決意を述べました。

この申し入れに対し、小野寺副市長は、「被害の状況については把握している。3月の桜の開花で心配していたことが現実になった。今後も生育状況を注視していかねばならないが、毎年起きる可能性があり、本気で対応を考えて行かなければならない」等と述べました。

議員団は、「降霜で中心花のみならず側花まで被害を受け、収量減と品質低下が避けられない状況である。防霜ファンの設置など、恒久的な対策を検討して頂きたい」と強調しました。



田村副委員長は、達増知事が被災者1人ひとりの苦しみにより添った復興を進めるために、共産党との共闘に踏み切り、被災者の医療費免除を11年間も継続実施したと強調。一方、元女性県議は、被災者の医療費免除継続を求め、県民の請願に背を向けたと指摘し、「国言いなりの県政に後戻りさせてはいけない。達増県政のさらなる前進に不可欠な3人の党県議団の議席を守ろう」と訴えました。

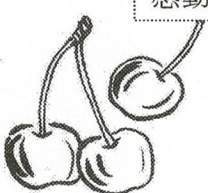
田村副委員長はさらに、国会最終盤で岸田政権と自公維新が改定マイナンバー法などを強行していると批判。要求で市民とつながり、政治のゆがみに切り込んで正す日本共産党の実績・役割を詳しく語り、「総選挙を始め、日本共産党へぜひ、お力をお貸しください」と呼びかけました。

参加者の声・感想から～

「平和を絶対あきらめない！」に感動しました。

「憲法が希望」に、強く共感しています

「勇気をもらった！」



千田みつ子県議は、「党県議団は、低所得者、事業者、医療・介護施設等の実態と要望をつぶさに聞きとり、知事に対し具体的な提案を繰り返し行ってきた。その結果、達増知事は、憲法13条の幸福追求権を政策の柱に据えながら、誰ひとり取り残さないとの立場で、最も困っている方々にいち早く対策を講じて来た。今最も必要な物価高騰対策や子育て支援対策などでも全国トップクラスの取り組みを進めてきており、党県議団は県政の推進力として頑張ってきた」と述べました。

吉田恭子党県副委員長は、「高橋千鶴子衆院議員の議席を必ず守り抜くとともに、私も国会へ」と力強く決意を述べました。